

北陸新幹線県内開業による県内経済への影響について

北陸新幹線県内開業に伴い、観光関連のサービス業や一部の製造業において、売上増加等の影響がみられる。また、あわら市・坂井市エリアや、嶺南東部エリアなどで、関東方面からの観光客の割合が大きく上昇

■ 県内開業に伴う企業からの声

小売業

- 敦賀延伸を機に、大手食品メーカーと連携したご当地グルメのコラボ商品を発売したところ、想定以上の売れ行き(スーパー)
- 新幹線駅周辺、特にあわらと敦賀の店舗の売上が増加している(コンビニ)
- 敦賀駅前の店舗の客数が急増し、他店舗からスタッフを派遣して対応している(土産物販売)

宿泊・飲食業等

- 開業以降、レンタカーでの来店客が増加している(レストラン)
- 駅周辺の店舗を中心に客数が増加し、平日の予約も増えている(居酒屋)
- 特急列車の廃止により、旧特急停車駅付近の店舗における客数減少が懸念(居酒屋)
- 首都圏からの利用者が増加し、平日の客数が増えている(旅館)
- 福井駅前の飲食店やホテル、芦原温泉の旅館からの受注が好調(リネンレンタル)
- 新幹線駅からかなり遠いため、影響はほぼない。二次交通が課題(ホテル)

旅客運送業

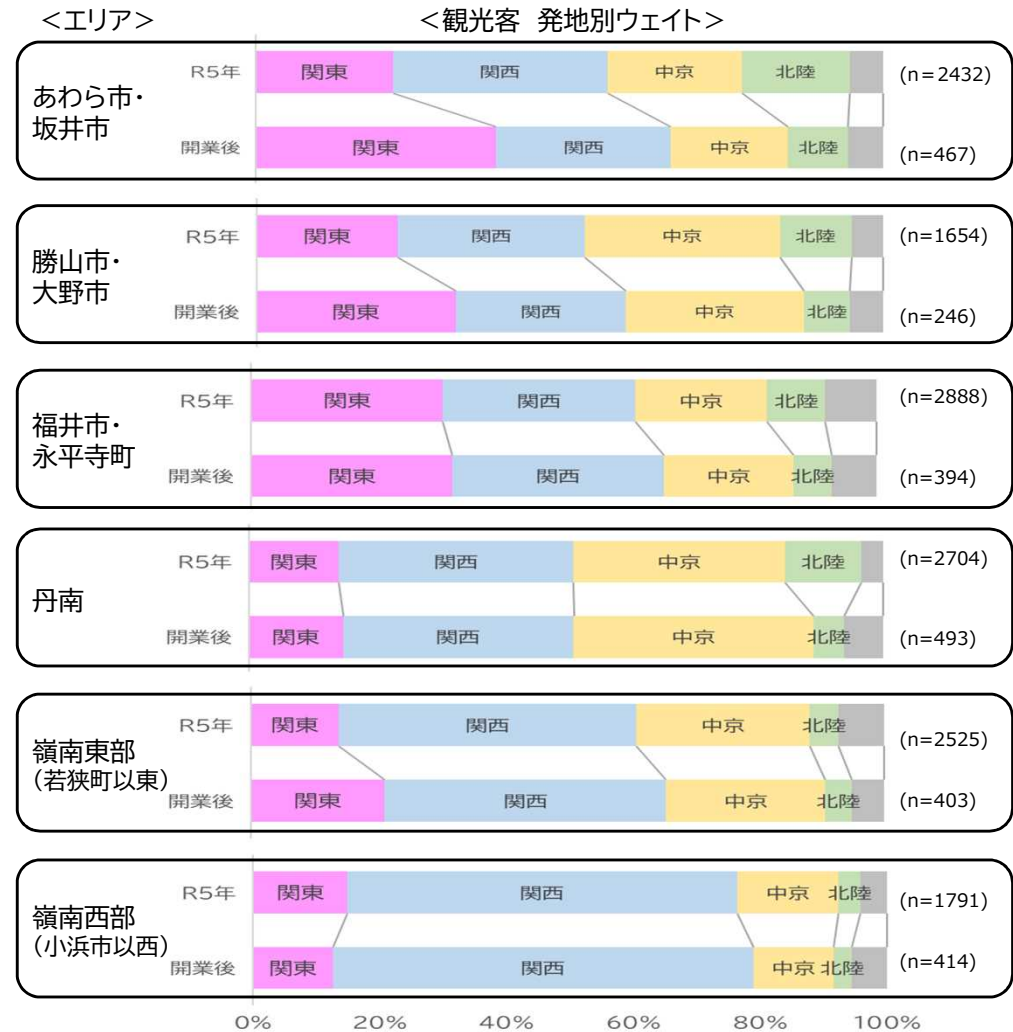
- 新幹線開業直後は、イベントもあってタクシー利用客が大きく伸びたが、4月以降は例年並みに落ち着いている(旅客)
- 関東方面からの観光客が増加しており、春休み期間中は土日だけでなく平日も好調(レンタカー)

食料品製造業

- 関東地方の総合スーパーからの注文が増加。新幹線開業に伴い、福井をPRするイベントが企画され、大口受注がその都度入るようになった(蕎麦等)
- 新幹線開業に伴う需要増に備え、今年の生産量は前年比で+10%の計画。4月上旬の売上は前年比+30%以上となっており、今後の売れ行き次第では更なる増産も必要(菓子)
- 県内の土産物店や道の駅からの注文が増加している。ただし、嶺南地域では、観光客が敦賀止まりとなっている印象(水産加工品)

■ 県内開業前後における人流の変化

(R5年=R5.1.1~12.31、開業後=R6.3.16~4.10)



【出所】「福井県観光データ分析システム「FTAS」/HAPPINESSキャンペーンアンケート分析 (R6.4.11公表時点)」より、当局作成
 【備考】福井県内の観光地や観光施設に設置したQRコードをスマートフォンで読み取ってアンケートページにアクセスし、アンケートに答えた結果の集計。なお、北陸は石川県、富山県とし、福井県内居住者は含まない。

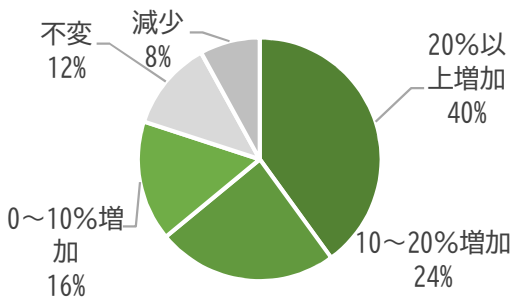
県内宿泊施設に対する調査結果について（1）

県内宿泊施設では、北陸新幹線延伸や北陸応援割の効果等により、足下の宿泊客数が県内全域で大幅に増加。通年でも、観光目的宿泊客を中心に、概ね増勢が維持される見通し

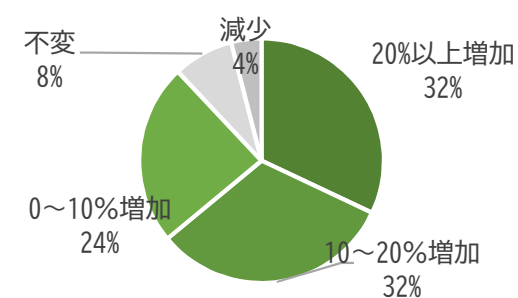
I. 開業後～通年における宿泊客数見通し

- 県内開業からGWまでの宿泊客数（予約含む）は、80%の施設で前年を上回る見込みとなっており、うち40%の施設では前年を20%以上上回る見込み。なお、新幹線駅が立地する4市とそれ以外の市町とで傾向に大差はない
- 宿泊需要の増加も背景に、約63%の施設で前年に比べ客室料金を引き上げている
- 通年でみても、約88%の施設で前年を上回る見通し、うち約32%の施設で前年を20%以上上回る見通しであるなど、足下の増勢が概ね維持される見通しとなっている

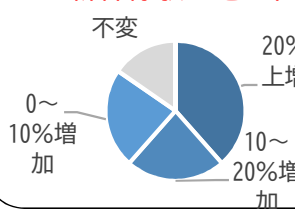
(1) 3/16～GWの予約状況(対前年比)



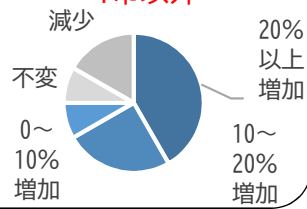
(2) R6年通年での見通し(対前年比)



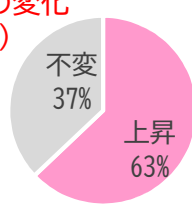
新幹線駅立地4市



4市以外



客室料金の変化(対前年比)



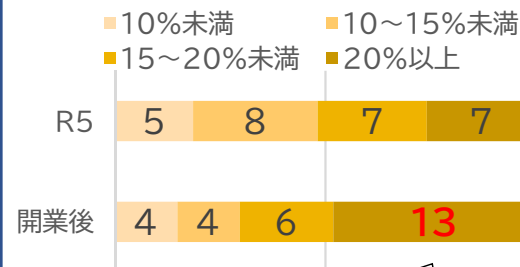
<事業者からの声>

- 新幹線延伸を見据えて客室をリニューアルし、客数は前年同期比で大幅増。特に「恐竜ルーム」が好評で、GWは満室、秋以降の予約も入りはじめている（シティホテル）
- 福井市内の宿泊キャパでは受け止められない需要が当館に流れてきているとみている（ビジネスホテル）
- 例年閑散期であった3～4月も好調に推移し、インバウンドも増加（民宿）
- コスト上昇が続く中、宿泊ニーズの増加を背景に客室料金を引き上げた（旅館）

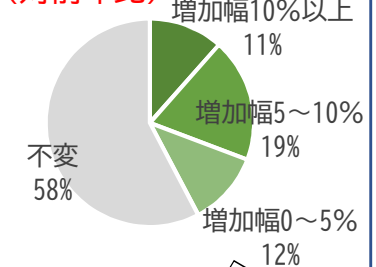
II. 宿泊客の発地別・目的別における変化

- 宿泊客の属性についてみると、人流の変化にともない、関東方面からの宿泊客数の割合が増加。新幹線駅が立地する4市以外でも同様の傾向がみられる
- 目的別では、約42%の施設で観光目的宿泊客の割合が増加し、ビジネスホテルでも半数の施設で観光目的宿泊客の割合が増加

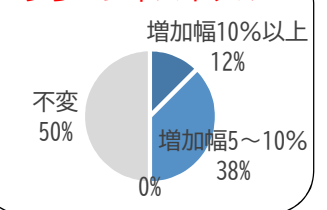
(1) 関東方面からの宿泊客に係る割合別の施設数



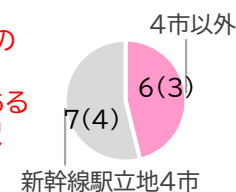
(2) 観光目的宿泊客の割合(対前年比)



うちビジネスホテル



関東方面からの宿泊客割合が20%以上である13施設の内訳
※()はR5



<事業者からの声>

- 新幹線開業以降、関東方面からの利用者の割合が1割強から3割に上昇（旅館）
- 開業以降は、家族連れなど複数名での宿泊が目立つようになり、観光目的での来県者の増加を感じる（シティホテル）
- 従来稼働が下がっていた土日に、ツインルームの利用者が増えてきたのは、観光ニーズの増加とみている（ビジネスホテル）

県内宿泊施設に対する調査結果について（2）

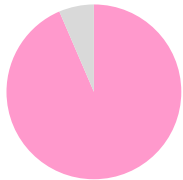
令和6年能登半島地震の影響は、現在はないとの回答が大勢。宿泊需要が増加するなか、多くの施設において人材確保が課題

Ⅲ. 能登半島地震の影響・北陸応援割の効果

- 能登半島地震による風評被害等の影響は、約94%の施設で「現在はない」との回答
- 北陸応援割については、集客等の効果があったとの見方が多い一方、施設側の負担増を指摘する声も聞かれる

(1)能登半島地震について (2)北陸応援割の効果について （「効果あり」回答割合）

現在も影響あり, 6%



現在は影響なし, 94%

	客室単価 1万円以下	客室単価 1万円超	全体
新幹線駅 立地4市	88.9%	42.9%	67.7%
4市以外	100.0%	58.3%	

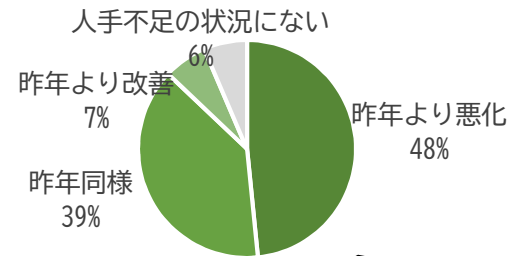
<事業者からの声>

- 応援割を使えた人、使えなかった人など様々だが、当館含め北陸への旅行・宿泊へのきっかけになったと思われる（民宿）
- 応援割は受付開始から数時間で予算に達したが、客単価上昇につながり、トータルではプラス（シティホテル）
- 予算超過分の多くはキャンセルとなり、対応に苦労したが、それでも客数は増え、需要に応じ客室料金も上昇（ビジネスホテル）
- 配付された額が少なかったため、効果がなかった（旅館）
- 予約のブロックや予算切れ後のキャンセル、クレーム対応などマイナスの影響が大きかった（その他簡易宿所）

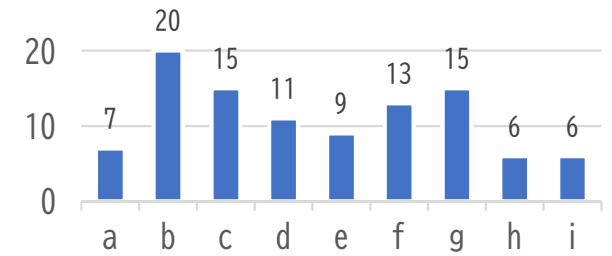
Ⅳ. 人手不足の状況と解消に向けた取組

- 約94%の施設が現在人手不足の状況にあると回答し、うち約48%は昨年より状況が悪化しているとの回答。また、人手不足にある施設の約59%が、稼働制限などから需要を取りこぼす可能性があるとの回答
- 人手不足への対策としては、「アルバイト・派遣の増加」との回答が最も多く、次いで「新規採用」、「賃金上昇」など、人材確保に関する回答が多い

(1)足下における人手不足の状況

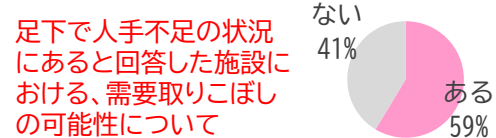


(2)人手不足への対策(予定含む)



選択肢（複数回答可）

- a) 残業の増加
- b) アルバイト・派遣の増加
- c) 新規(中途)採用
- d) 外国人採用の拡大
- e) DXの推進
- f) 従業員のマルチタスク化
- g) 賃金上昇
- h) 賃金以外の待遇改善
- i) 配膳その他オペレーションの効率化



<事業者からの声>

- 調理や清掃のスタッフ不足のため、稼働制限を設けている（旅館）
- アルバイトの時給を引き上げたものの応募は少なく、残業が増加（ビジネスホテル）
- 従業員の高齢化が進み、人員不足で稼働できない日もあるが、地域の若者が少ないため新規で採用することも難しい（旅館）

【調査概要】

・県内宿泊施設31社に対し、R6年4月上旬に聞き取り調査を実施。調査先の内訳は、「シティホテル」7、「ビジネスホテル」9、「旅館」10、「簡易宿所等」5。地域別では、新幹線駅を擁する4市内（福井市、あわら市、越前市、敦賀市）に所在する施設が16、それ以外の市町に所在する施設が15。嶺北地域で21、嶺南地域で10

・設問により回答数が異なり、Ⅰ.については25施設、Ⅱ.(1)については27施設、Ⅱ.(2)については26施設、Ⅲ.及びⅣ.については31施設からの回答を集計

※施設の種類の、便宜上、次のように定義。「シティホテル」・・・宿泊以外に飲食・会議等の設備を備える施設。「ビジネスホテル」・・・主に宿泊機能に特化した施設（カプセルホテルを除く）。「旅館」・・・和室を中心に10室以上を有する施設。「簡易宿所等」・・・10室未満の民宿や一棟貸しの宿など、左記以外の施設